

カンジダ血流感染症に伴う肺病変の3例

¹千葉大学医学部附属病院 感染症管理治療部、²千葉大学真菌医学研究センター

○渡辺 哲^{1,2}、石和田 稔彦¹、竹内 典子¹、亀井 克彦^{1,2}、佐藤 武幸¹

【背景】深在性真菌症は肺病変を呈するものが多いが、カンジダ症の肺病変の頻度はまれとされている。肺カンジダ症の要因としては *Candida* 属菌の誤嚥、血流感染が挙げられているが、詳細については不明な点も多い。今回我々はカンジダ血症に伴う肺病変を3例経験したので文献的考察を加えて報告する。【症例】1. 68歳男性、食道癌に対して中心静脈カテーテルを挿入の上抗がん化学療法および放射線療法を行なった。経過中に発熱を認め静脈血より *C. albicans* を検出した。β-D-glucan は陽性。MCFG による治療を開始し菌は陰性化した。治療開始後8日目の胸部CTで両側肺に多発性の結節影を認めた。病理学的検索にて病変部に酵母菌体を認めた。その後結節影は消退傾向となりβ-D-glucan も陰性化した。2. 46歳男性、筋緊張性ジストロフィー、2型糖尿病で入院加療中に発熱を認め、静脈血より *C. albicans* を検出した。β-D-glucan は陽性であり、MCFG の投与を行い菌は陰性化した。治療開始19日目の胸部CTにて両側上肺野優位に結節影を認めた。なお、中心静脈カテーテルは留置されていなかった。その後の経過は転院のため不明である。3. 12歳男性、急性リンパ性白血病に対し骨髄移植を行い寛解状態であった。発熱、咽頭痛を認め入院、MEPM の投与で解熱したが再び発熱し、中心静脈カテーテル逆流血より *C. tropicalis* を検出した。β-D-glucan は陽性、MCFG および VRCZ の投与を開始し菌は陰性化した。治療開始21日目の胸部CTで両側肺に多発結節影を認めたものの、治療継続により結節影は消退した。【考察】今回提示した3例のうち病理学的検査で診断が確認されているのは1例のみであったが、治療経過よりいずれも *Candida* 属菌による肺病変と判断した。3例とも抗真菌薬投与開始後に肺病変がおくられて出現していたが、血流感染の onset と肺病変の出現時期との関係については今後症例の蓄積による詳細な検討が必要である。

固形悪性腫瘍患者のカンジダ菌血症における予後の検討

¹がん・感染症センター都立駒込病院 臨床微生物科

○細田 智弘¹、関谷 紀貴¹

背景：カンジダ菌血症は致死率が高く、早期の適切な介入が予後に影響を与える。固形悪性腫瘍患者は発症のリスクが高い集団であるが、本邦においてその予後を検討した報告は少ない。方法：2001年1月から2012年7月に当院へ入院した固形悪性腫瘍患者で、血液培養検体からカンジダ属が分離された例を対象とした。カンジダ属の菌種、過去に予後との関連が報告されている患者背景、治療内容を診療録から後方視的に調査し、30日生存群と死亡群に分けて検討した。適切な治療に関して、抗真菌薬の使用量は micafungin 100mg/day 以上、amphotericin B 0.5mg/kg/day 以上、fluconazole 6mg/kg/day 以上 (eGFR<50ml/min は半量) とした。また、*Candida glabrata* は micafungin または amphotericin B のみを適切な治療薬とした。結果：対象者59例のうち、頻度が高い腫瘍は胃癌15例、食道癌13例、膵癌9例、大腸癌8例であり、菌種は *C. albicans* 25例、*C. glabrata* 16例、*C. parapsilosis* 15例、*C. tropicalis* 5例、その他3例であった (重複感染例あり)。30日間追跡可能であった55例 (93.2%) のうち、生存群は33例 (60.0%)、死亡群は22例 (40.0%) であった。各群における予後関連因子のうち、中心静脈カテーテル (CVC) 抜去のみ生存群で有意に多かった (24/30, 80% 対 9/21, 43%; p=0.015)。患者背景である糖尿病、ステロイド使用、ICU入室、ショック、好中球減少、血小板減少、CVC留置はいずれも生存群と死亡群で差を認めなかった。また、適切な抗真菌薬投与 (23/33, 70% 対 11/22, 50%; p=0.23)、血液培養採取後2日以内の投与 (15/33, 46% 対 7/22, 32%; p=0.47) は生存群で高い割合であったが、有意差は認めなかった。結論：固形悪性腫瘍患者におけるカンジダ菌血症の30日死亡率は40%であり、CVC抜去が予後を改善することが示唆される。患者背景や治療介入が与える影響について、今後は多施設での検討が望まれる。